

# 2012年度 神奈川大学非文字資料研究センター 第1回公開展示

## 稲宮康人写真展 帝国後 海外神社跡地の景観変容

期 間：2012年12月11日(火)～20日(木) 10:00～16:30

会 場：神奈川大学横浜キャンパス 16号館 2階 ホワイエ



### 写真展示の概要について

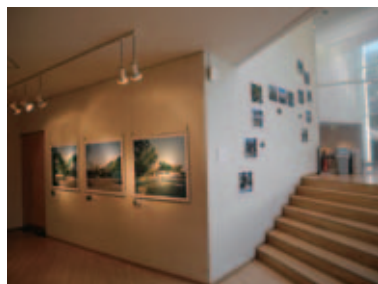
稲宮康人 (写真家)



建国神廟跡 (現 偽満皇宮博物館) 長春・中国



展示風景①



展示風景②

2012年12月11日から20日まで神奈川大学にて「帝国後 海外神社跡地の景観変容」の写真展示を行った。展示したのは、明治以降に大日本帝国領内に建てられた神社が現在どのようになっているかを撮った写真である。海外(台湾、朝鮮、樺太、南洋、満洲の各地域に創られた神社跡)を中心にして、国内の創建神社(檀原神宮、平安神宮、靖国神社)を織り交ぜ、戦前の神社機構の概要を視覚的に提示することを試みた。

今回の展示は3つの展示方法を用いて全体を構成した。

- ①旧帝国を構成していた前掲各地域の中から代表的な写真を選び地域に関係なく並べ、当時の神社の広がりについて提示。(展示風景①参照)
- ②2011年に行った「海外神社跡地から見た景観の持続と変容」研究班主催の台湾神社跡地調査の際に撮った写真を展示し、特定の地域の中で神社跡地がどのように変化したかを提示。
- ③比較的遺構が残っている3箇所の神社跡地(江原神社・韓国、樺太護国神社・ロシア、嘉義神社・台湾)について、それぞれ複数枚の写真を展示し、広大な神社跡地の全体像を提示。(展示風景②画面右参照)

また、それぞれの場所に対応する当時の